

## チューリップの花芽分化状況について(8月5日現在)

平成 29 年 8 月 10 日  
 経営普及課  
 (農業革新支援担当)

新潟県農業総合研究所園芸研究センターのチューリップ花芽定期観測結果から、今年の花芽分化及びノーズの伸長状況について主要 3 品種のデータを紹介します。

## 1 供試球根(調査品種)

農業総合研究所園芸研究センター本場(砂壤土)産球根

品種(系統)	掘取日	球周	初期乾燥	貯蔵	調査球数
プレルジューム(T)	6月15日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵	5球
イルデフランス(SL)	6月15日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵	5球
メリーウィドー(T)	6月15日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵	5球

## 2 花芽分化の状況

- (1) 本年の花芽分化は、いずれの品種も前半はかなり緩慢であった。7月下旬以降は急速な進展が見られるものの、依然平年に比べて10日以上遅れており、調査個体間のばらつきも多い(添付ファイル表1、図1)。
- (2) プレルジュームは雌ずい分化始期(G1)～柱頭分化期(G2)、イルデフランスは外雄ずい分化期(A1)～柱頭分化完成期(G3)で、平年に比べて10日程度の遅れ。メリーウィドーは分化始期(Ⅱ)～外雄ずい分化期(A1)で、平年に比べて20日程度遅れている(添付ファイル表1、図1)。
- (3) ノーズの伸長も花芽分化と同様に平年に比べて10日～20日程度遅れている(添付ファイル表1、図1)。
- (4) 花芽分化開始条件の1つであるりん片含水率の低下については、7月10日定期調査では、品種によりばらつきがあるものの、3品種平均で58.5%と平年値(55.7%)に比べて高く、過去9年では2番目に高かった(添付ファイル図2)。
- (5) 6月と7月の平均気温による花芽分化のタイプは、今年は平年に比べて6月の平均気温がかなり低く、7月の平均気温がかなり高かったため、花芽分化予測図に当てはめると「遅延型」と推測される(添付ファイル図3)。

## 3 今後の技術対応等

- (1) 冷蔵計画の策定に当たっては、必ず花芽を確認し、無理の無い計画とする。
- (2) 本年は平年に比べて花芽分化が遅れているため、冷蔵開始予定が8月中旬以降の球根についても計画的に中温処理を行うことが望ましい。その際、エチレングスによる障害を防止するため、腐敗球の除去を徹底し、十分な換気に留意する。

## 4 具体的データ

添付ファイル「T170805data」参照

※ 次回の生育情報は、8月10日調査の第7報をお知らせする予定です。